

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01055

研究課題名（和文）環太平洋地域のトランスナショナルな女性ネットワークとハイブリッドな女性たち

研究課題名（英文）Culturally Hybrid Women on Trans-Pacific Women's Network

研究代表者

安武 留美（Yasutake, Rumi）

甲南大学・人文科学研究科・特別研究員

研究者番号：10351751

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：日米で収集した資料から、1930年ホノルルに発足した汎太平洋女性協会に繋がる女性エリートの社会活動を検証し、戦間期の環太平洋地域での女性運動の活発化が、グローバル化に伴う社会の統合や分裂、第一次世界大戦後のグローバルガバナンスの試みとどう関わっていたかを分析した。従来、米併合時またその後のハワイと環太平洋地域は、男性主体の白人定住者植民地主義や米帝国主義の文脈で議論されてきた。本研究は、女性の社会活動に注目し、それが高度にエリート・帝国主義的でありながらも試行錯誤的で、多方向に影響し合っただけでハイブリッド化し、広く同地域の教育・福祉の向上と、人種・国家間の融和を目指していたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

加速するグローバル化は、ヒト・モノの移動を活発化させるだけではなく、分散・共存する多様な思考や生活様式を、凝縮して単一化、そしてその過程を支配したい勢力争いを誘発する。日本でも、昨今外国にルーツを持つ人口が増え、そのような多様な人々を受け入れながら社会的調和を保つ体制を整えることが急務となっている。本研究は、19世紀から20世紀の半ばにかけて環太平洋地域のグローバル化の最先端に位置したハワイに注目し、急激な人口変動、社会変化、さらには国家存亡を巡る社会の分断という危機に直面して活動した女性たちの人種や国家を超えた連携の詳細を明らかにし、今日の課題に関する知見を深めようとするものである。

研究成果の概要（英文）：Using primary and secondary sources in English and Japanese, this project examines the hybridity of elite women, who participated in forming the Pan-Pacific Women's Association in Honolulu in 1930. It analyzed how the trans-Pacific women's internationalizing efforts during the interwar years related to 1) globalization and the ensuing social integration and fragmentation and 2) Geneva-based post-WWI attempts at global governance. American missionary off-springs in post-annexation Hawai'i and the Pacific are discussed as agents of U.S. imperialism and white settler colonialism. When you focus on women's social movements led by missionary descendant women, its cultural hybridity looms out. Although their movements were trial-and-error, high-elite, and imperialistic, their trans-racial/national attempts to forge women's collective power aimed to improve education and social welfare and to mediate rapidly multi-culturalizing and multi-racializing communities to globalization.

研究分野：女性史

キーワード：国際女性運動 環太平洋 グローバリゼーション 人の移動 ハワイ ハイブリッド 市民権 国際協力

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究当初の背景

21世紀に入り、国家の枠組みを超えて歴史現象を分析するトランスナショナル・ヒストリー、また近代世界システムの拡大との関わりを明らかにしようとするグローバル・ヒストリーが、アメリカ史研究に大きな影響を与えてきた。政治・経済・社会的側面からアプローチするこれらの研究は、環大西洋地域を対象として始まったが、近年その対象を環太平洋地域へも拡大している。また、アメリカ女性史の分野では、第一次世界大戦勃発後に急速に国際化した欧米初の世俗的な女性組織またその運動の拡大をトランスナショナルな手法で分析する研究が盛んとなってきた。同時に、19世紀初めの宗教リバイバルを起源としてアメリカ婦人宣教師の開拓したトランスナショナルな教会婦人のネットワークとその活動の歴史的変遷についても多くの研究が生まれてきた。

近代後期のグローバル化は、西欧、特に白人男性が優越するアングロ・サクソン社会の制度や文化を拡散しながら、世界各地で急速な社会変化、またその変化を巡っての分断や紛争を引き起こしたと理解されてきた。そして、この時期にアングロ・サクソン系女性たちの牽引したトランスナショナルな女性ネットワークのアジアへの拡大は、西欧対アジアまた白人対アジア人という構図の中で議論されてきた。

2. 研究の目的

本研究は、太平洋の交差点と言われるハワイに注目する。ここでは、先住民対（欧米およびアジアからの）定住植民地人という構図も成り立つ。近代後期のグローバル化の中で、アメリカ人女性宣教師はアメリカ、ハワイ、日本、中国を結ぶトランスナショナルな女性ネットワークを開拓した。本研究は20世紀初頭にそのネットワーク上で繰り広げられた多様な人種・民族・文化的背景を持つ女性たちの交流、交渉、連携の諸相を明らかにし、戦間期に環太平洋地域の女性の団結を模索した汎太平洋婦人会議、またその参加者の文化的ハイブリッド性を検証した。そして、この研究成果を既に完了している基盤研究（19世紀初めにハワイに到来したアメリカ人宣教師、またその子孫の関わった女性の連携・協働の試みが、環太平洋地域のグローバル化、それに伴うアングロ・サクソン制度や文化の拡散、そしてそれを巡る社会の対立や分断とどのように関わったのかについての分析）と結合させ、欧米初の国際女性運動の連続性と変容に注目しながら、1920年代ハワイで始まった環太平洋地域の国際女性組織が、同時期の環大西洋地域の欧米系女性運動の国際化や国際政府機関のグローバルガバナンスの着手とどのように関わったのかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

アメリカ人女性宣教師が開拓したアメリカ、ハワイ、日本、中国を結ぶトランスナショナルな女性ネットワークの中核を成したのは、アメリカ人婦人宣教師とその子孫、そして彼女らと緊密に関わったハワイ人および日本人/日系人、中国人/中国系の女性たち、また彼女らと連携した米国以外に拠点を置くアングロ・サクソン系女性活動家たちであった。アングロ・サクソンのプロテスタント的価値観を身につけたそれら女性活動家の祖国や移住先での活動を明らかにしながら、異なる人種・民族・文化的背景を持つ女性たちが、なぜ、またどのように接触することになったのか、またその相互交流の諸相の具体例を分析した。

当初、米国以外の国々でも資料収集を行うことを予定していたが、研究対象は英語でのコミュニケーション可能な女性エリートたちであり、その活動は英語の文献で拾うことができた。またコロナ禍でアーカイブに足を運んでの資料収集が困難となった一方、1次資料を含めての文献のデジタル化が進んだのでできる限りそれらを用いた。

4. 研究成果

①アメリカ人女性宣教師が開拓したネットワーク上での女性たちの相互交流は、多様な文化・価値観が多方向に影響し合いながら新たに多様な文化や価値観を生み出していた、②それは広く社会の分裂や分断を生む原因ともなっていた、③その分裂や分断を繕うための新たな道を模索して、多文化的価値観を身につけた少数の女性エリートたちが、人種・民族・国家を超えた女性の連携と団結を目指した、この3点を明らかにした。

そのような女性たちの連携は、所属するそれぞれの国家、社会、組織の動向やその内部での対立や分裂に、大きな影響を受けていた。また、女性たちの連携それ自体も分裂・分断を経験しながら、その修復努力を続けることで相互理解を深めていったと考えられる。

アメリカ宣教師子孫の影響が色濃いハワイにおいて、多様な人種・民族的背景を持つブルジョア・エリートの女性たちは、20世紀初頭においても、アメリカ19世紀のジェンダー規範の打破ではなくそれを唱えながら女性領域の拡大と自治また地位向上を目指そうとしていた傾向が認められる。東アジアでは大陸への利権をめぐる国際情勢が緊迫化し、日・中・韓の女性たちの連携は困難なものとなりつつあった。また、アメリカ本土では、女性参政権獲得後、女性の領域の打破に消極的な穏健派とその打破を目指す過激派が、女性の保護か男女同権かを巡っての対立を顕著化させていた。ハワイ発、環太平洋地域のハイブリッドなエリート女性たちの連携と団結を目指す試みは、政治・経済のみならず市民生活にも強力な権力を固持する宣教師の男性子孫やその男性協働者たちと巧みな駆け引きを必要したが、対立する国々・組織に属する女性たちを包容して相互交流や対話を促した。結果、第一次世界大戦後ヨーロッパでの国際組織の設立やグローバルガバナンスの試みに女性の声を反映させようとする環大西洋地域の女性を中心とする国際女性運動に連携し、かつ影響を与えることができたと推測できる。

本研究成果は、国内外の研究会や学会で発表するとともに、論文として発表してきた。現在は、既に完了している基盤研究と合体して書籍として出版できるよう改訂作業を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Rumi Yasutake	4. 巻 32
2. 論文標題 Women in Hawai'i and the Nineteenth Amendment	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Women's History	6. 最初と最後の頁 32-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安武留美	4. 巻 20
2. 論文標題 書評、小檜山ルイ著『帝国の福音 - ルーシー・ビーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 155-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Rumi Yasutake
2. 発表標題 Transnational Experiences at the Crossroads of the Pacific: The Case of Japanese Immigrant Daughter Alice Sae Teshima Noda
3. 学会等名 International Federation for Research in Women's History（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rumi Yasutake
2. 発表標題 Re-Franchising Women of Hawai'i, 1912-1922: Settler Colonialism and Politics of Gender, Race, Class, and Nation at the Crossroads of the Pacific
3. 学会等名 上智大学アメリカ研究所シンポジウム：Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants and Womanhood（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rumi Yasutake
2. 発表標題 Women's Work" at the Time of Crises: Facilitating and/or Resisting U.S. Colonialism
3. 学会等名 Organization of American Historians (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Rumi Yasutake
2. 発表標題 International/Global History
3. 学会等名 University of Melbourne Weibinar Panel Discussion "A global hisotry of feminism? Perspectives from across the Pacific" (招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Rumi Yasutake with Nova Robinson, "The twentieth century."	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 17
3. 書名 Bonnie G. Smith and Nova Robinson, eds. The Routledge Global History of Feminism	

1. 著者名 金澤周作監修、藤井崇、青谷秀紀、古谷大輔、坂本優一郎、小野沢透編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 2
3. 書名 論点・西洋史学 (「IV-11、19世紀のジェンダーと人種」)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------